

## 単元名「井澤弥惣兵衛、敗れたり?!～先人を通して見る和歌山県の今～」

### 1. 目的・目標・評価規準

#### 【目的】

今ある自分たちの生活が、どのような過程を経て営めるようになったのか、日々の生活の中で立ち止まって考えることは無いに等しい。和歌山県が幸福度ランキング 21 位という結果を受けて子供たちが着目したのは、先人・もの(特産品等)・こと(環境)だった。本単元の学習を通して、先人「井澤弥惣兵衛」と出会い、“治水の神様”と言われるが所以を知った上での視点から、自分たちが住む現代の和歌山県について見つめ直し、新たな気付きや課題意識をもたせたいと考え、以下の目標を設定し単元をデザインする。

#### 【目標】

当時の世の中の課題や人々の願いに着目し、見学・調査したり資料で調べたりして地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現することを通して、地域の発展に尽くした先人は、さまざまな苦心や努力により、当時の人々の生活向上に貢献したことを理解できるようにする。

#### 【評価規準】

- 地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により、当時の生活の向上に貢献したことを理解し、見学・調査したり地図や本などの資料で調べたりして、まとめている。(知識・技能)
- 当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きについて考え、表現している。(思考・判断・表現)
- 先人の働きについて、主体的に考え、問題解決しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

### 2. 教科の本質と教材について

「社会のしくみ」を知ること。そのために、自分たちの生活で当たり前になっていることの裏側を知り、新たな気付きや疑問を見付け、問題解決していくことが社会科の本質に迫る道だと考える。また、社会科では、学習したことやこれまでの経験をもとに、自分事として“本気”で考えられるかどうかが主体的に学びを深め続けるカギとなる。

子供たちが着目した和歌山県の先人「井澤弥惣兵衛」を通して、“自分たちの幸福度が何によって構成されているか”を結びつけながら学べると考える。本単元の学習から自然災害から人々を守る活動の学習へと進めることで、過去も現在も、命や日々の生活を守る行動の根底には、そこに生きる人々の願いがあることを感じさせたい。

一年間の社会科学習の中で、『綺麗ごと』と『理想』の違いに気付き、自分で考えて選択・判断し、よりよい社会生活を送る人になるきっかけとなるような教材になればと考えている。

### 3. 子供の実態(抽出児)と単元末に期待する本質を味わった子供の姿

抽出児 A児

「社会、嫌いなんよな」と4月に言っていた一人。今では「社会おもしろくなってきたわ!」と言い、意欲的に自分の疑問を解決しようと取り組んでいる。「話し合っと思ってんやけど」と、仲間の様々な考えを含んだ上で出てきた疑問を、みんなに投げかけて授業の流れに一石を投じるようになってきた。本単元の学習を通してどのような見方、捉え方をし、新たに何を見出すのか楽しみである。

#### 【単元末に期待する子供の振り返り】

弥惣兵衛さんがしたことは本当にすごいことばかりで順位をつけられるものじゃない。弥惣兵衛さんがしたことのすべては、人を想ってしていて、今の自分たちの生活にもつながっていると思った。ほかの先人も同じだと思う。未来の人たちのことまで考えて、残してくれた先人がいる和歌山県の幸福度ランキングはもっと高くなってほしい。

### 4. 本単元における教科の本質を味わうためのしかけ

- ① 社会的事象の先にいる“人”を想って考えられるようにする。

問題解決に向けて思考する際、意欲の源になるのが、事象の先にいる人にどれだけ思いを馳せられるかだと考

える。他人事ではなく、人を本気で想うからこそ出てくる、その子供独自の考えを大事にしたい。

## ② 疑問を擲き上げ、気付きの波紋を全体に広げる。

学びを深めるには「なぜ？」が個々の中に湧き起こることが必要不可欠だと考える。社会科の見方・考え方を習得させることで社会的事象や出合ったものを見る視点の多様性に気付かせ、自身の意欲ベクトルに沿って、主体的に調べて考えを伝え合えるよう自信をもたせる対話をし続ける。発表ではなく、考えを深めるポイントで立ち止まって再考し、互いの考えを紡ぎ合う面白さを味わえるよう子供の発言・つぶやきを拾い、全体に広げる切り返しのタイミングを見計らう。

## 5. 学習の流れ (全 16 時間)

### 単元の問い

※この問いに対する自分の考えを強くもち、考えの根拠となる情報を集め、自分の経験や収集した情報をもとに更に考え、解決し続けていく。

◎なぜ井澤弥惣兵衛は、これらのことを成し遂げることができたのだろう。

問い (第 1, 2 時)

★自分が“すごい!”と思う先人はこの人です! 【思】

問い (第 3 時)

★幸福度ランキングから考える「人にとって大事なもの」とは? 【思】

問い (第 4 時)

★人にとって大事なものすべてに関わっている先人は誰だろう? 【知】【思】

8月の台風⇒1学期の大雨・浸水の時、こんなことがあった!

※自分の経験をもとに、ある子供が自学で調べてきていたことをクラスのみんに語る。

問い (第 5～8 時)

★井澤弥惣兵衛の「?」について調べ、弥惣兵衛さんについて知り尽くそう! 【知】【態】

※海南省歴史民俗資料館や亀池などに行って話を聞き、実際に歩いて見て回る。

問い (第 9, 10 時)

★井澤弥惣兵衛って、どんな人? 【思】

問い (第 11, 12 時)

★まだまだ疑問があつて知り尽くせていないなあ… 出てきた疑問について考えよう! 【思】【態】

問い (第 13, 14 時) ※本時

★井澤弥惣兵衛がした一番すごいことって何だろう? 【知】【思】

問い (第 15 時)

★現代に井澤弥惣兵衛がいたら、世の中は変わるのかな? 【知】【思】

※井澤弥惣兵衛って、結局どんな人?

問い (第 16 時)

★幸福な社会って、どんな社会なのだろう? 【思】

※和歌山県の幸福度ランキング 21 位、今ならどう思う?

## 6. 本時の目標

見学やインタビュー及び調べ学習で得た情報をもとに、井澤弥惣兵衛がおこなったことの中から一番の偉業について考え、話し合い、考えを深める。 【思考力・判断力・表現力】

## 7. リフレクション

### 7. 1. 年間を通した単元デザイン

“本気で考えたい！”と思えるような、夢中になるモノに出合わせたいと常に考えている。人は、様々な環境（人・もの・事象）の中で生きていく。それらと向き合うことから逃げず、裏側に目を向けて知る面白さや探究するたくましさを身に付けてほしいと願い、日々子供たちと過ごしてきた。

生徒エージェンシーの発揮を可能にするための要素のうち、本年度は、子供たち一人一人が自分の情熱を燃やし、別々の学習経験や機会をつなげて考えるようになることに重点を置いて取り組むことにした。個性や主体性を発揮できる学級風土づくりと、学びの中で見出す質の高い楽しさを感じられる授業づくりは並行し、相乗効果となっていくと考える。そのために、まずは目の前にいる子供たちの性格や特徴、経験してきたこと等を見取り、何がこの子供たちの心に火をつけるのかを探った。

本年度に出会った子供たちは、元気であたたかく素直だが受動的で従順、「楽しい」の質の幼さ、思考力にかなりの差があるといった第一印象だった。これらの印象から上記の願いは強まり、もっとのびのびと個々の考えを持つ楽しさ、そして、一人一人違う発想を持って話し合う面白さを味わわせたいという思いのもと、年間を通した社会科学学習をデザインすることにした。この年間計画（右の二次元コード参照）をベースとし、学習指導要領と擦り合わせながら目標を立て、子供たちが抱くだろう疑問を単元の問い及び本時の問いとして想定していった。



### 7. 2. 子供の思考と変容のプロセス

本年度の社会科の一本の筋として「幸福度ランキング」を取り上げ、人の幸せは何で決まるのかという疑問を持ち、解決するために年間を通して考えていく構想とした。最初、和歌山県の幸福度が21位であることに意外にも子供たちは肯定的で、自分たちが住む県への誇りや愛着はあまり無いように感じた。そこで、和歌山県について知らなければ幸福度を考えられないという流れになり、個々の興味に沿って調べ学習が始まった。調べてみると“アドベンチャーワールドやエネルギーランドとか遊べる楽しい場所がある！”“世界遺産がある！”“特産品がいっぱいある！”“田舎だけど海・山・川が綺麗で自然が豊か！”といった情報が集まった。それらを社会科の見方・考え方とし、何かを改めて見つめ直す際の視点となっていくようジャンル分けをして習得させた。その際、「幸福度は環境によるってことか」や「人に関して調べたのって、Aさんだけやな」といったつぶやきがあり、環境が自分たちに及ぼす影響と、和歌山に縁のある先人についての情報不足を確認し合った。そこから、自分たちの今ある生活＝環境の裏側を見ていく流れに乗っていった。

このような思考プロセスによって学びを進めた結果、2学期の単元『地域の発展に尽くした人々』で井澤弥惣兵衛を取り上げた学習において、子供の思考や事象等の見方に変容が現れた。1学期の単元『廃棄物を処理する事業』での学習内容や、自分たちでつくってきた本学級での経験と結び付けて考え始めたのである（図）。

「自分だったら～」、「自分たちだったら～」という発言が増え、現代社会の3RやSDGsの内容や理念と関連付けたり、4年B組という小さな社会である学級をつくっていく難しさの中で味わう達成感と比べたりしながら考えられる力が身に付いてきたことで、様々な視点から先人の行いを見て粘り強く再考するようになり、考えに思いが乗って語り合う姿（図2）が輝き始めた。

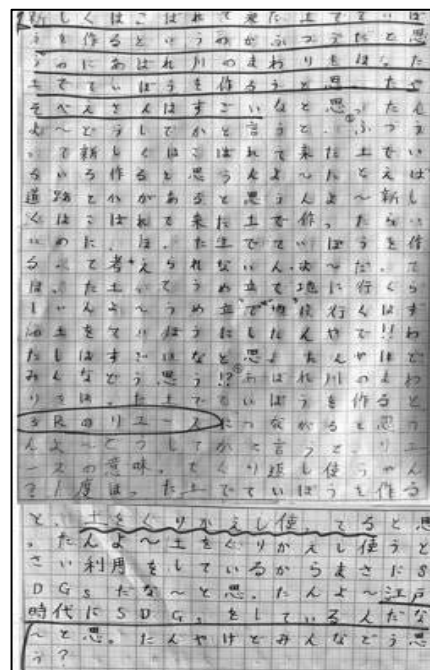


図1

また、井澤弥惣兵衛を“すごい！”と敬い、慕う気持ちが増し、子供一人一人が学習に向かい続ける原動力となった。等身大の井澤弥惣兵衛（図3）や、川の改修工事に使用していた道具を作り、学級全体が井澤弥惣兵衛一色に染まっていった。等身大の井澤弥惣兵衛に話しかけたり、掃除の際は「やそべえさんも日光浴したいでな！」と言ってベランダに移動させたり、社会見学で行った海南市歴史民俗資料館に家族で再訪問したりするなどの主体的な行動が見られた。こうした言動は、本単元の学習を終えた現在も続いている。



図2

このような子供の姿を見ていると、井澤弥惣兵衛という一人の先人を通して見つめ直した学習過程によって得たものは知識や概念だけでなく、物事の裏側を見ようとする目、自分の考えを伝えたいという意欲、本気で考え続け語り合う面白さ、そして、人を想う心や未来へとつなぐ自分たちの役割まで考えられるようになったことが分かる。この変容は、年間を貫く学習構想を持っていたことと、身に付けさせなければならない力を意識しながら日々子供を見取り、子供から出た疑問を生かす学習を繰り返したことにより見られた変容だと考える。

### 7. 3. まとめ

本年度の研究では、子供が主体的に考え続け、自分の思いを語り合う学びの中にある質の高い楽しさを味わえる社会科を目指し、学習問題が教師発信のものでも子供発信のものでも、その問題解決の過程において先述した個の姿が見られればよいと考えた。

1学期の学習では情報等を収集し、複数の情報の中から自分の考えの根拠となる情報をもとに話せるようになってほしいと考えたが、本学級の子供たちの素直さや自由さが委縮してしまい、生かされなかった。根拠となる情報をそのまま説明し、考えに思いが乗らなかったのである。しかし、情報から読み取る力や情報を吟味し、選択・判断する力は現代社会では欠かせない。目の前にいる子供たちの個性を生かしながら着実に力を積み上げていく学習活動を、教師が日々調整することをしなければ子供の目と心は磨かれないと痛感した。そのため、年間計画を変更し2学期からは本学級の子供の特徴である「人を想う強さとあたたかさ」を生かした単元構想に練り直した。その結果、個に変容が見られ、子供主体で学びが継続している。

今後の課題としては、年間を通す一本の筋をより精選する必要がある。本年度は『幸福度』について考える際、幸せとは何かについて迫っていくが、幸せは個の内に抱くものであり、他者と話し合うことで深めるべきものなのかどうかまで教材研究段階で至っていなかった。子供主体で考え学ぶことと、何もかも自由に学ばせることとは異なるということ、また、子供たちのこれからの生き様に影響を与えるという意識をもち、研究を進めていきたい。